

特集★アンブシュア大研究!!

～プロ奏者に訊く理想のフォーム

チューバ
古本大志さんの
アンブシュア

まるで何も吹いていないような
自然な口の形が理想です
Tuba

めざす理想のアンブシュアは

僕が理想としているのは、普段の顔に、ただマウスピースをつけているようなシンプルなアンブシュアです。例えば、人は話すときに口の形を意識したり、変に作ったりせず、自然に「おはよう」と言いますよね。それと同じくらい「自然に」というのが目標です。

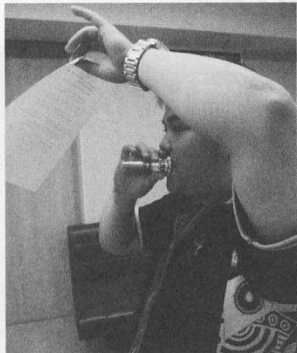
たまにマウスピースが口の中心からズレている人もいますが、人によって歯並びも違いますし、姿勢も人によって違うと思うので、全員が同じような形のアンブシュアである必要はまったくないと思います。

僕は学生するとき、唇を横に引く癖があつてリップスラーがうまくできず、その結果マウスピースを押し付けてしまうなど苦労をした時期がありました。

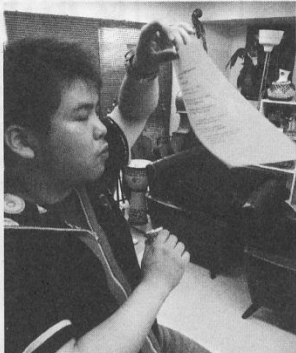
そんなとき、アート・オブ・ブラス・ウィーンが演奏している映像を見たら、ハンス・ガンシユさん（トランペット）が、口や楽器の角度もほとんど動かさず吹いていて、音を消したら吹いているかどうかもわからないくらい、自然な口の形をしていて感動しました。「これだ!!」と思いました。

●息の流れを視覚的に理解する

自然な息でバズィングすることが大切です。それを確認するために、1枚の紙を口の前に持ってきて、息がどれだけ出ているか視覚的に理解し



【写真2】 バズィングで同じように紙を吹く



【写真1】 息で紙を吹く

●やってみよう!! マウスピース・カラオケ

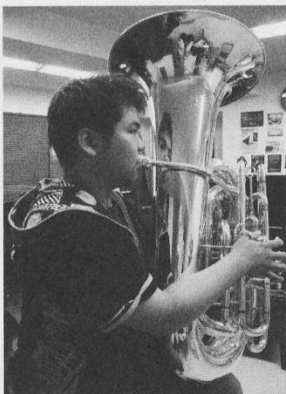
ましよう【写真1】。さらにマウスピースでバズィングした際も【写真2】、同じように紙が息で吹き飛ばされるか、ゲーム感覚でやってみてください。

曲がうまく吹けないときにバズィングをしてみると、たいいてい音程が違ったり、音を外したりしています。そんなとき僕がよくやるのが「マウスピース・カラオケ」です。これは、自分が知っている曲のメロディを、マウスピースのバズィングで演奏するものです。これは自分が覚えている一番好きな曲で構いません。これが普通に通じると、とてもきれいにタンギングすることができるようになります。自分の楽な音域で試してみてください。

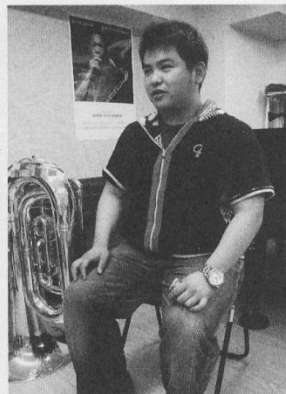
●自然に楽器を構えて吹く

構えとアンブシュアも大いに関連します。「楽器を演奏する姿勢はまつすががよい」とよくいわれますが、声で歌う場合でも、確かにまつすが立ったときに一番音が響きます。ですから普段の自然な姿勢で吹くのが一番よいでしょう【写真3】。

でも、チューバは楽器が大きいし重いので、どうしても姿勢が悪くなってしまうがちに……。とくに女の子やま



【写真4】 自然な姿勢で口の高さにマウスピースが来ている



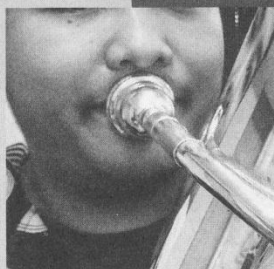
【写真3】 自然なよい姿勢

●楽器やマウスピースを特別視しない

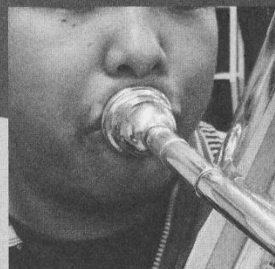
アンブシュアについて考えるのは、何のためでしょうか。それはよい音が出て、安定した演奏ができるようになるために考えるわけで、マウスピースでのバズィング練習が終われば、チューバを吹くときには、それまで練習してきたことと楽器を吹くことが自然に繋がらなければいけません。僕はいつもレッスンで自然に出た息が唇を振動させて、その振動音がマウ

だ小さい男の子など、自然な姿勢のときに自分の口の位置にマウスピースがこない（マウスピースが高い位置にある）人には、チューバスタンドを推奨します。あくまで自然な姿勢（楽な姿勢ではけつてない）のときに、マウスピースが口元にくる（楽器を口元にもつてくる）ようにしてください【写真4】。

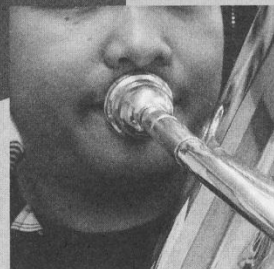
クローズアップ・アンブシュア 古本さんの場合



高音域をメゾ・フォルテで。中音域に比べて少し頬骨のあたりに張りがあるが、あまり形にとらわれないように



低音域をメゾ・フォルテで吹く。下あごは下がるが、音に対して結果的に下がっているのであまり形だけにとらわれないように



中音域をメゾ・フォルテで吹く

スピースを通して楽器に入っていけば、普通に楽器は鳴るよ」と説明しています。楽器やマウスピースでの練習を特別視しないで（別個に考えないで）、練習してほしいです。



2009年度の小誌ワンポイントレッスンを担当した古本大志さん。国際チューバコンペティション第2位。第21回日本管打楽器コンクールチューバ部門第1位。名古屋フィルや東京交響楽団と共演するなど、若手の注目株です。